



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー  
大阪有機化学工業株式会社

2022年2月

2021年11月期

# 個人投資家向け会社説明会

見えないけれど、  
あなたのそばに

東証1部：4187



◆ 当社のご紹介

会社概要

沿革

企業理念

当社事業の位置づけ

事業拠点

◆ 2021年11月期 決算概要

◆ 2022年11月期 業績予想

◆ 中期経営計画

## 大阪有機化学工業株式会社

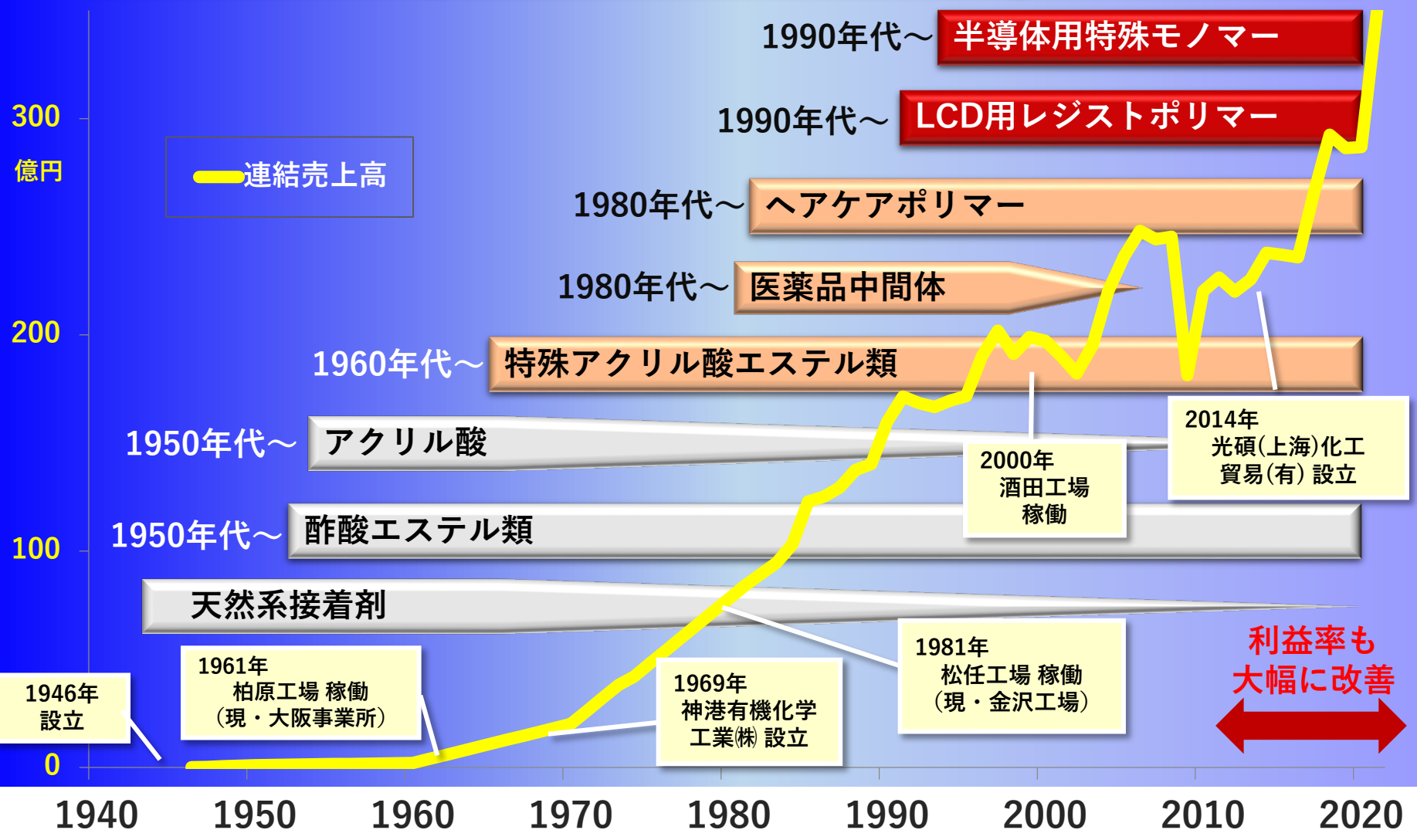
創立	1941年12月8日
設立	1946年12月21日
本社	大阪府中央区安土町一丁目8番15号
資本金	36億29万円
従業員数	447名（連結）
上場市場	東証一部（証券コード：4187）



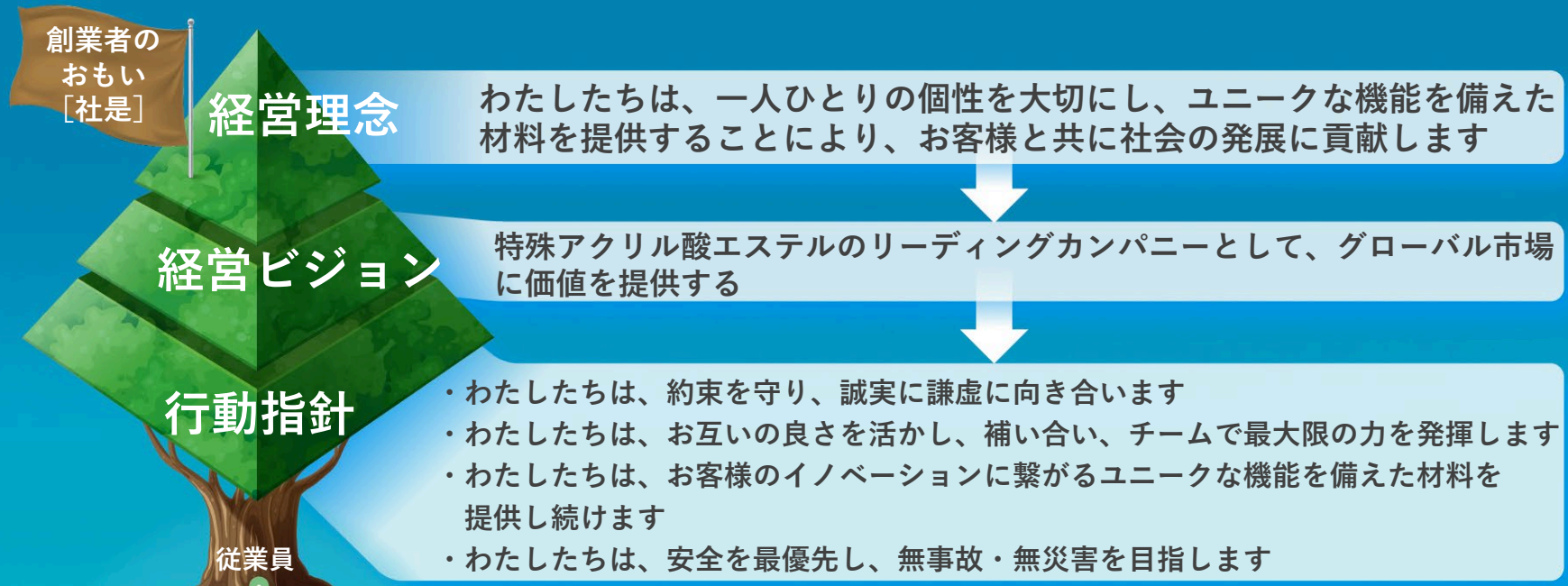
創成期

ファインケミカル  
導入期

電子材料  
発展期







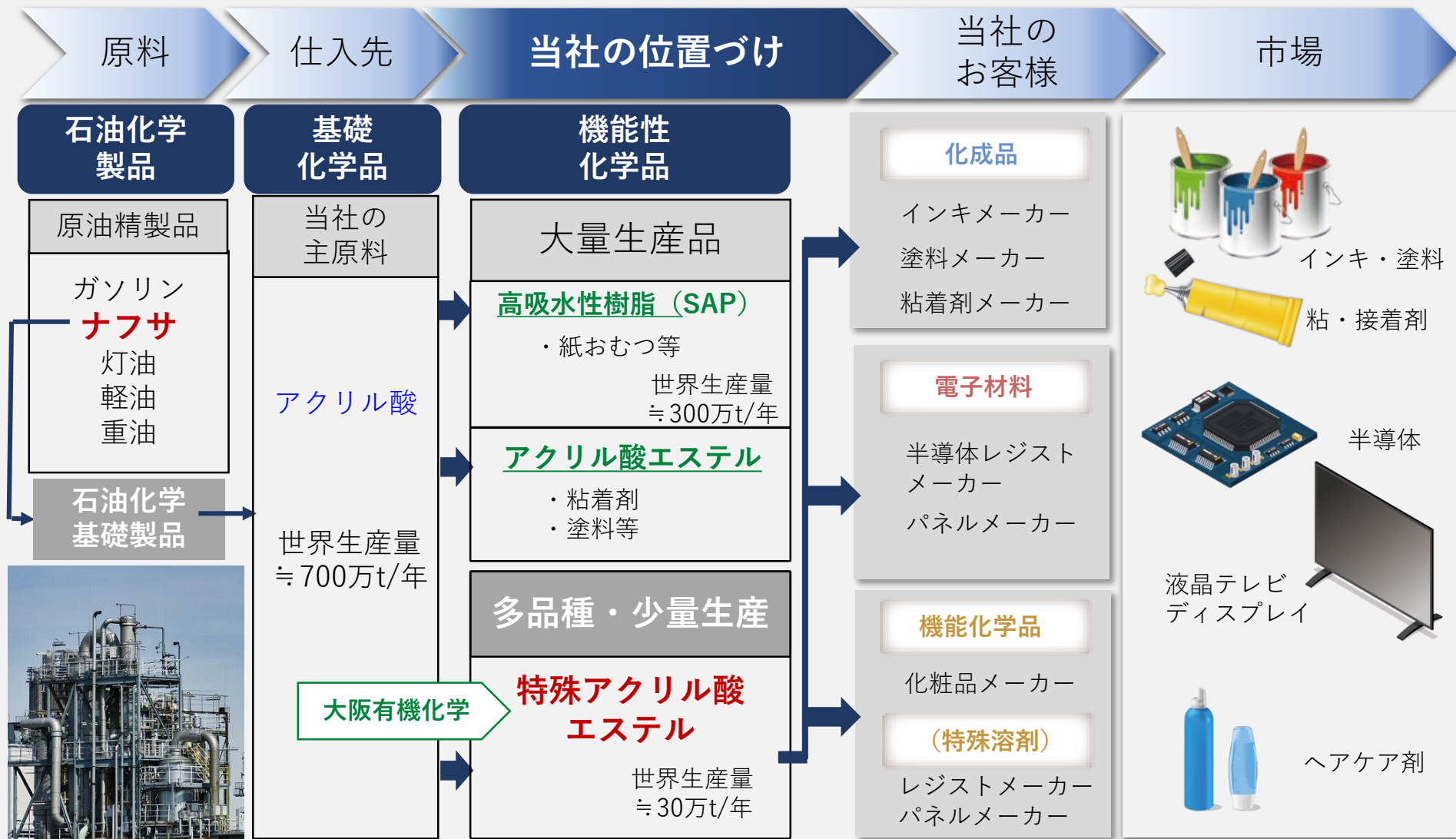
## キャッチフレーズ

見えないけれど、あなたのそばに



# 当社事業の位置づけ

\* 特殊アクリル酸エステルの**多品種少量生産**を得意とする B to B メーカー。  
 多彩な製品群を有し、世界でトップシェアの品目を何種類も保有しています。



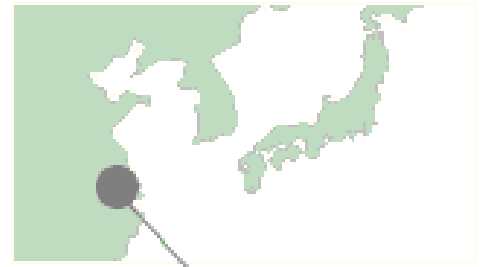
金沢工場



酒田工場



- 事業所
- 工場
- グループ



光碩（上海）化工貿易有限公司

神港有機化学工業(株)



◆ 当社のご紹介

◆ 2021年11月期 決算概要

◆ 2022年11月期 業績予想

◆ 中期経営計画



## 外部状況

新型コロナウイルス感染症の影響は続くものの、工業生産は回復基調となりました。その一方で、半導体不足や物流の停滞、原油高などのマイナス要因も見られています。

## 売上高

化成品、電子材料、機能化学品のすべてのセグメントで売上高が好調に推移し、売上高は、前期比22.1%増の350億2千7百万円となりました。

## 営業利益

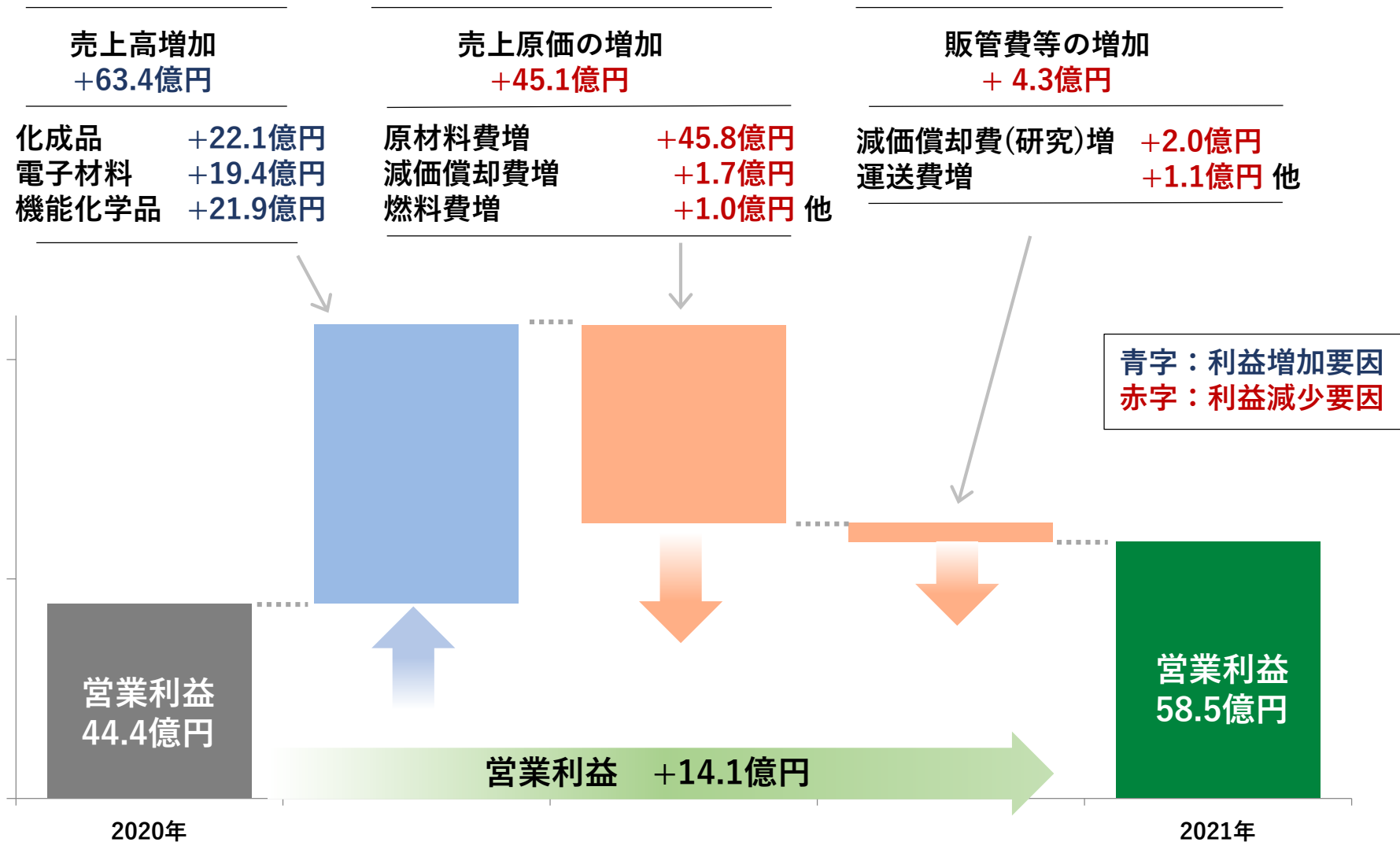
売上高の増加により、営業利益は前期比31.8%増の58億5千2百万円となりました。

(百万円)

	2020/11 実績	2021/11 予想 (5/21修正値)	2021/11 実績	前年比	
				増減額	増減率
売上高	28,681	34,000	35,027	+6,346	22.1%
営業利益	4,442	5,800	5,852	+1,410	31.8%
経常利益	4,612	6,100	6,253	+1,641	35.6%
純利益*	3,313	4,400	4,998	+1,685	50.9%
国内ナフサ (¥/KL)	32,800	—	50,750	—	—
為替 (¥/\$)	107	—	109	—	—

\* 親会社株主に帰属する当期純利益

原材料費の値上がり等の影響を受けましたが、各セグメントの販売が好調に推移しました。その結果、営業利益は前年同期に対し、14.1億円の増加となりました。



# セグメント実績

## ■ 化成品

自動車塗料・インキ・光学材料向け粘着剤の用途等、全般的に好調で**増収**となりました。販売増により**増益**となりました。

売上高  
120億5千7百万円  
(前年同期比 +22.5%)

セグメント利益  
9億3千8百万円  
(前年同期比 +108.1%)

## ■ 電子材料

リモートワークやWeb会議の増加による表示材料の需要増や、半導体需要の増大などにより**増収**となりました。販売増に伴い**増益**となりました。

売上高  
145億8百万円  
(前年同期比 +15.4%)

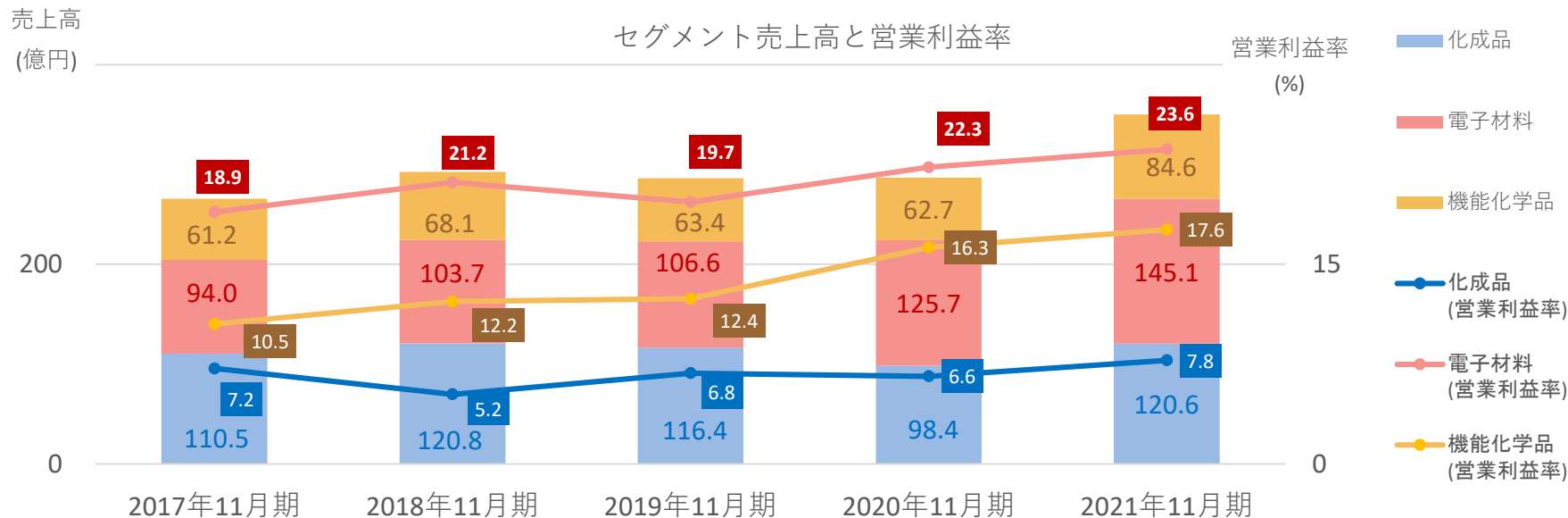
セグメント利益  
34億3千万円  
(前年同期比 +14.6%)

## ■ 機能化学品

2021年2月に事業譲受した化粧品原料事業分の上乗せなどにより**増収**となりました。利益率の高い製品比率の増加により**増益**となりました。

売上高  
84億6千2百万円  
(前年同期比 +35.0%)

セグメント利益  
14億9千万円  
(前年同期比 +44.9%)



◆ 当社のご紹介

◆ 2021年11月期 決算概要

◆ **2022年11月期 業績予想**

◆ 中期経営計画

## 通期業績予想

2022年11月期は、売上高が330億円<sup>(注)</sup>、営業利益は0.48億円増の59億円と予想しております。

(注) 2022年11月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用いたします。

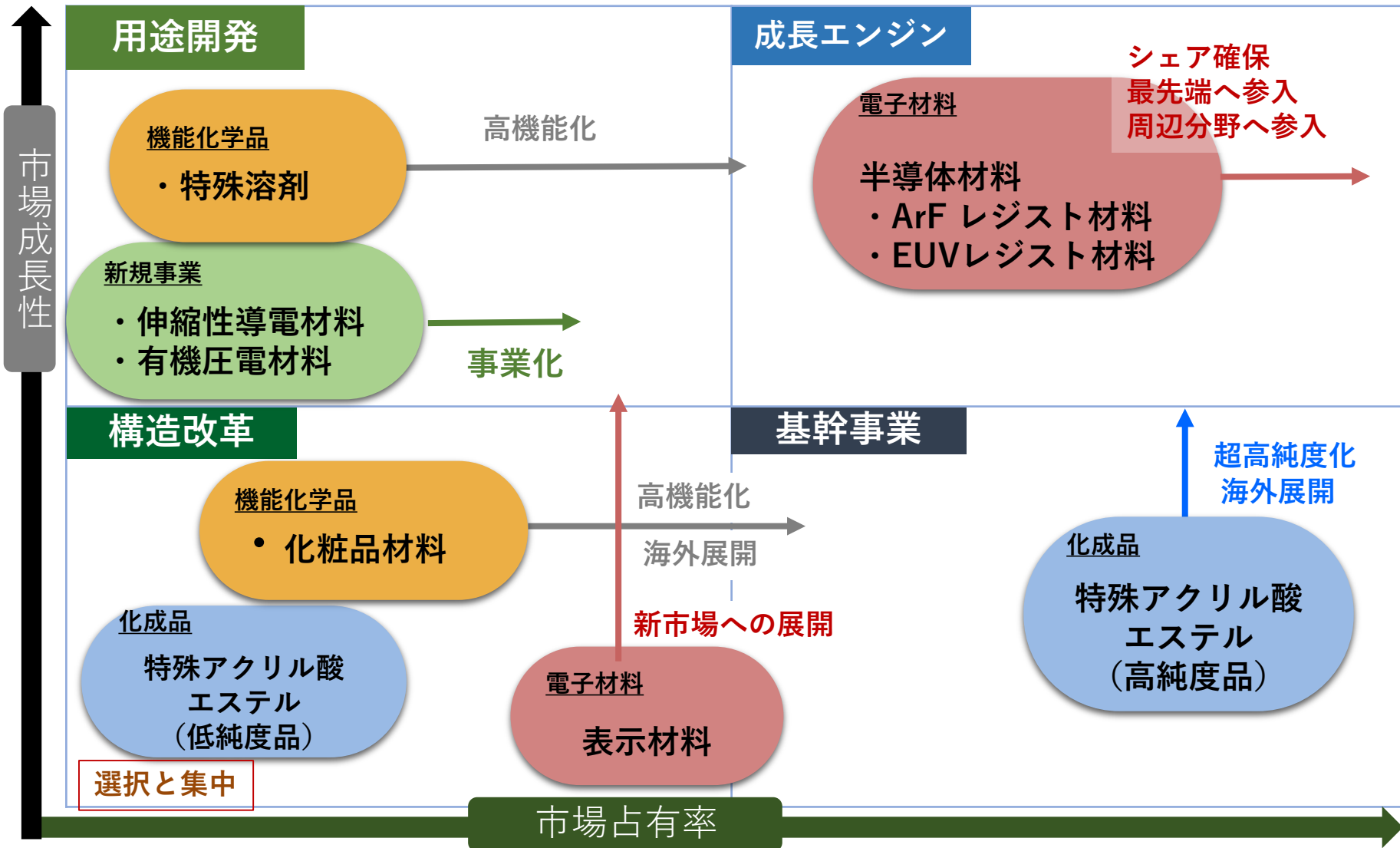
	(百万円)			
	2021/11 実績	2022/11 予想	対前年実績	
			増減額	増減率
売上高(旧会計基準)	35,027	37,888	+2,861	+8.2%
売上高(新会計基準)	—	33,000	—	—
営業利益	5,852	5,900	+48	+0.8%
経常利益	6,253	6,150	△103	△1.7%
純利益*	4,998	4,200	△798	△16.0%
国内ナフサ (¥/KL)	50,750	54,000	—	—
為替 (¥/\$)	109	110	—	—

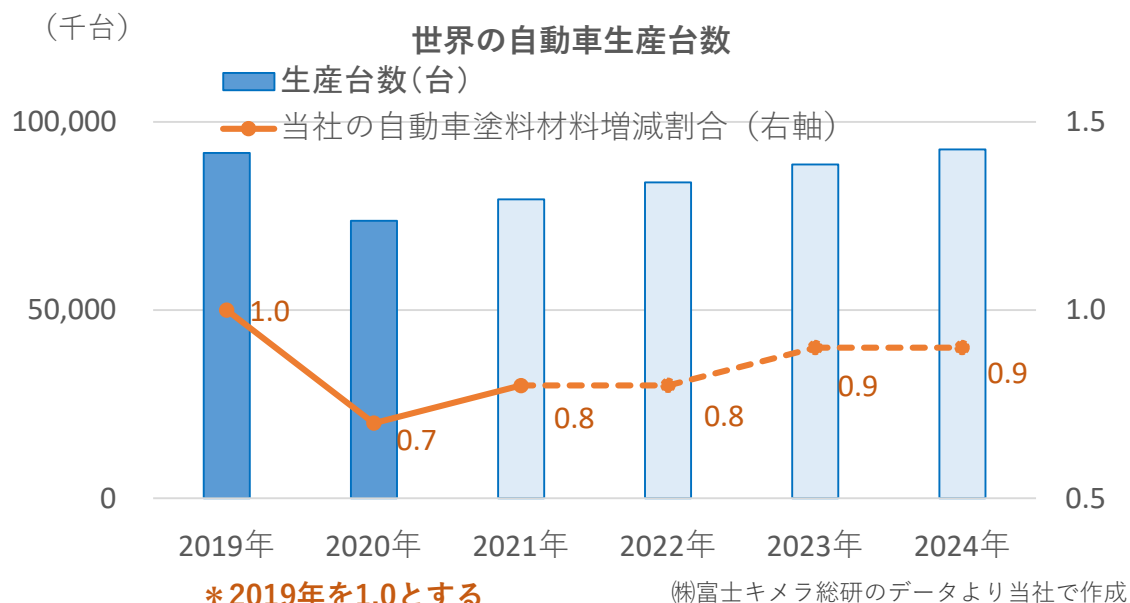
\* 親会社株主に帰属する当期純利益



## 当社材料群の特性を明確にして活動を行います

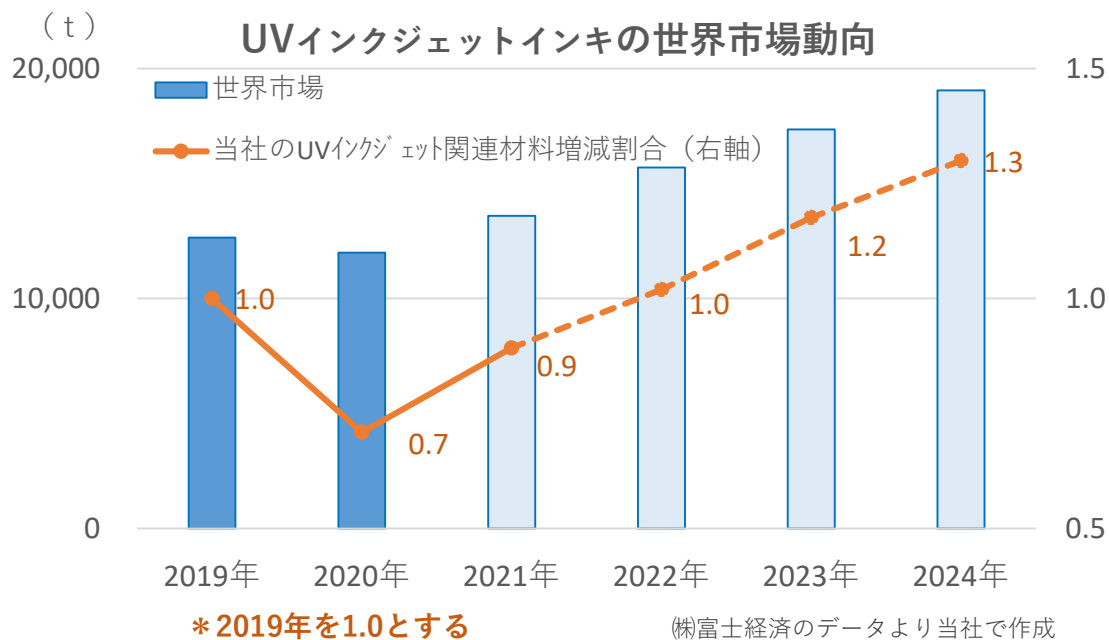
- ◆半導体事業は、最先端材料でさらに伸ばしていきます
- ◆特殊アクリル酸エステルでは、低純度品は製品の選択と集中を進めます  
一方、高純度品は海外展開と高純度化による付加価値向上を目指します
- ◆機能化学品においては、高機能化や海外展開により利益貢献度の向上を目指します
- ◆新規事業については、研究環境を整備し、用途開発を進めていきます





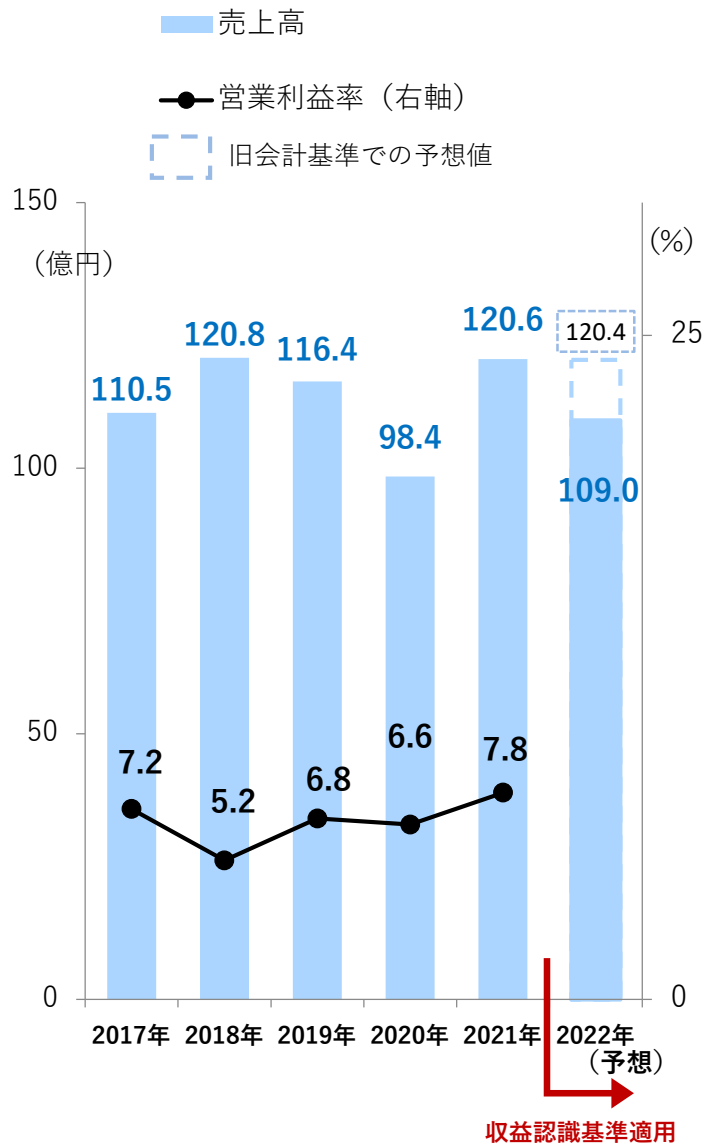
## ●自動車塗料市場動向

コロナ禍により自動車工場の操業停止が相次ぎ、2020年は自動車用塗料の販売数量が落ち込みましたが、2021年には回復に転じています。



## ●UVインクジェットの動向

環境問題を背景に、溶剤を使用しない、UV硬化型インクジェットの市場は今後成長が見込まれています。



## 2022年11月期 予想

売上高 **109億円**

(旧会計基準) **120.4億円** △0.2% (対2021年)

### 外部環境

- 世界が同時に経済活動を再開する中、物流の混乱や、原油高によるコスト増などのマイナス要素が目立つ状況。

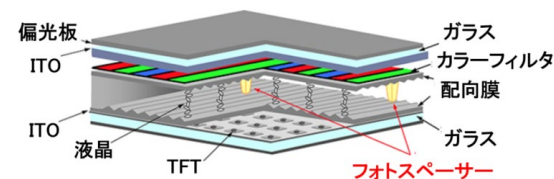
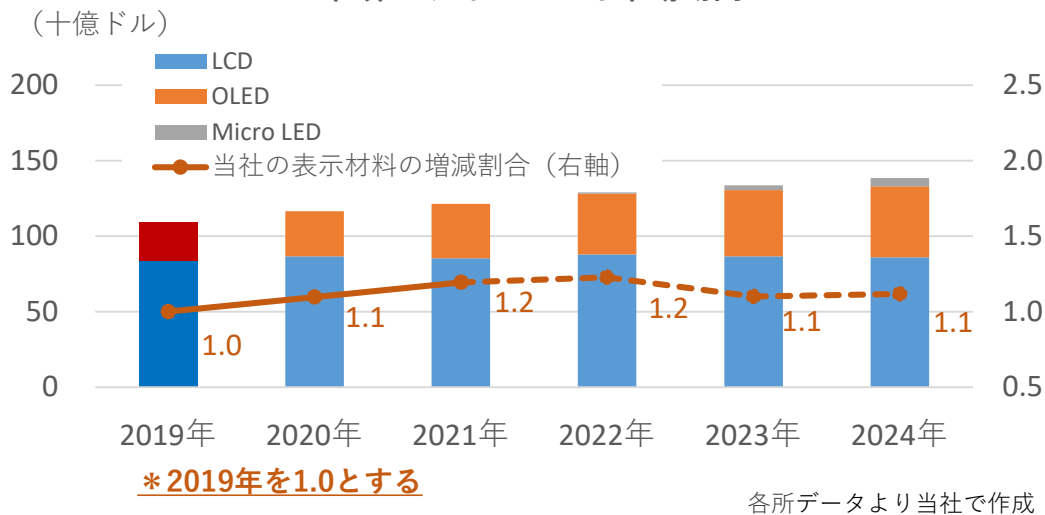
### 当社の状況

- 塗料・インキ・粘着剤の各用途向けの製品が好調を維持。
- 急激な原油高で増加した原料コストの、製品価格への転嫁を進める。
- 天然由来の製品の拡充に努める。

### 市場におけるリスク

- 原油価格の高止まり。
- 天然由来原料相場の高騰。
- コロナ禍による経済動向。

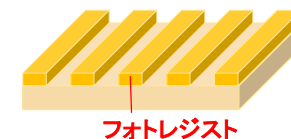
## 世界のディスプレイ市場動向



### ●ディスプレイの状況

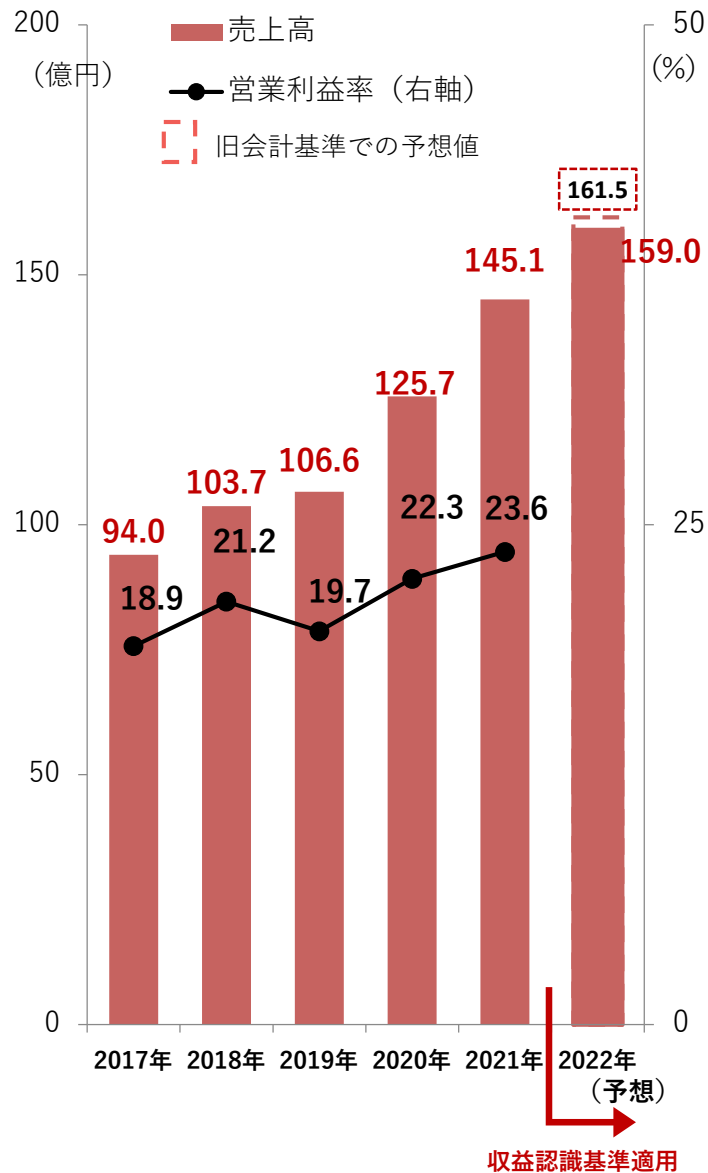
コロナ禍においても、テレワークの浸透などによりディスプレイ市場は好調に推移しました。今後は、LCDに代わり、OLEDやMicro LEDが増加してくる見込みです。

## 世界の半導体市場動向



### ●半導体の状況

「5G」の普及やリモートワーク増加の影響などで半導体市場は拡大を続けています。当社が強みを持つArF市場も成長を続け、また最先端のEUVも増加してくる見込みです。



## 2022年11月期 予想

売上高 159億円

(旧会計基準) 161.5億円 +11.3% (対2021年)

## 外部環境

- 「5G」の普及やリモートワーク増加の影響などで半導体市場は拡大。2022年も全体的に供給不足が継続する見込み。
- 最先端のEUV露光はアジアを中心に実用化が進展。
- 巣ごもり需要によりFPDも需要が増加。

## 当社の状況

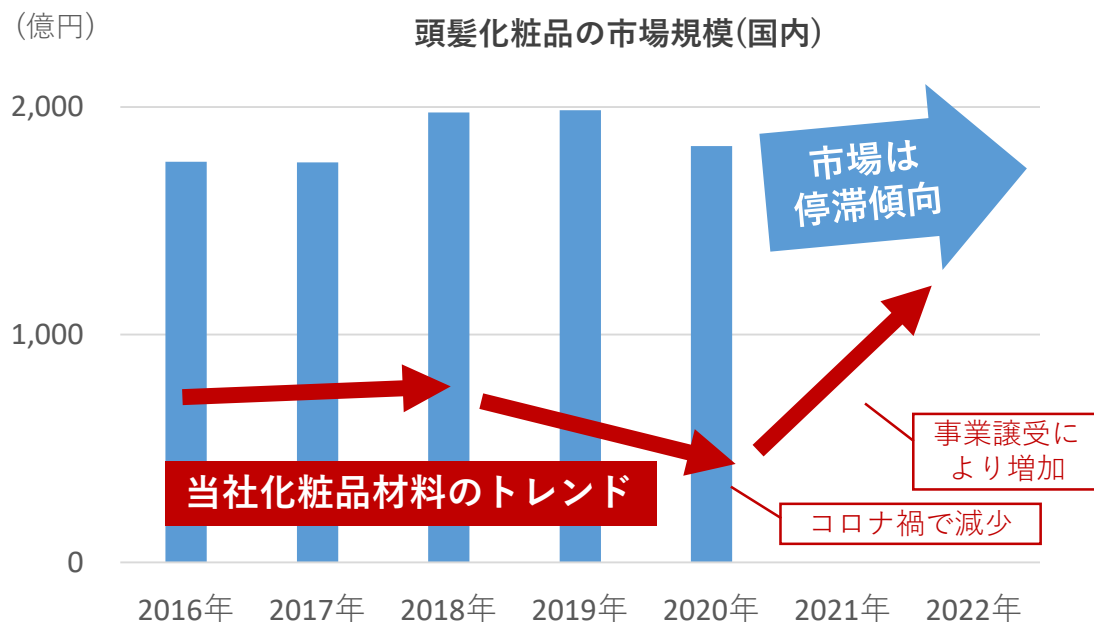
- ArF露光用レジスト原料は引き続き好調であり、ニーズへの対応に注力していく。
- EUV用途の材料も堅調。さらなる採用増を目指す。
- FPD関連材料も引き続き顧客要望の実現と拡販に努める。

## 市場におけるリスク

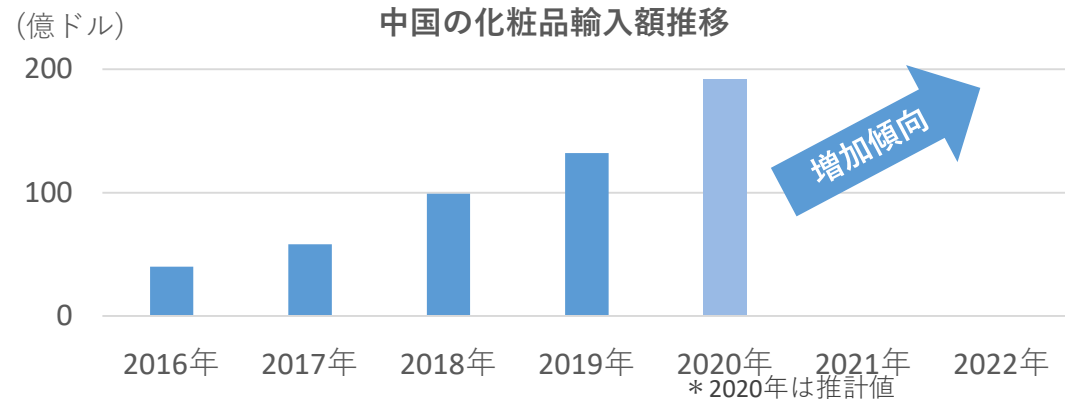
- 米中経済対立の激化。



# ヘアケア材料の市場動向



生産動態統計年報 化学工業統計編のデータより当社で作成



JETRO資料を参照し当社で作成

## ●頭髮化粧品の状況

男性用頭髮化粧品を含む頭髮化粧品の市場規模は、2019年までは概ね増加傾向が続いていましたが、2020年はコロナ禍の巣ごもりの影響などもあり減少。2021年も回復の気配は見られていますが概ね停滞傾向です。当社の化粧品関連材料もコロナ禍で売上げは減少しましたが、2021年2月に三菱ケミカルから頭髮化粧品用アクリル樹脂の事業を譲受し、売上げは大幅に増加しています。

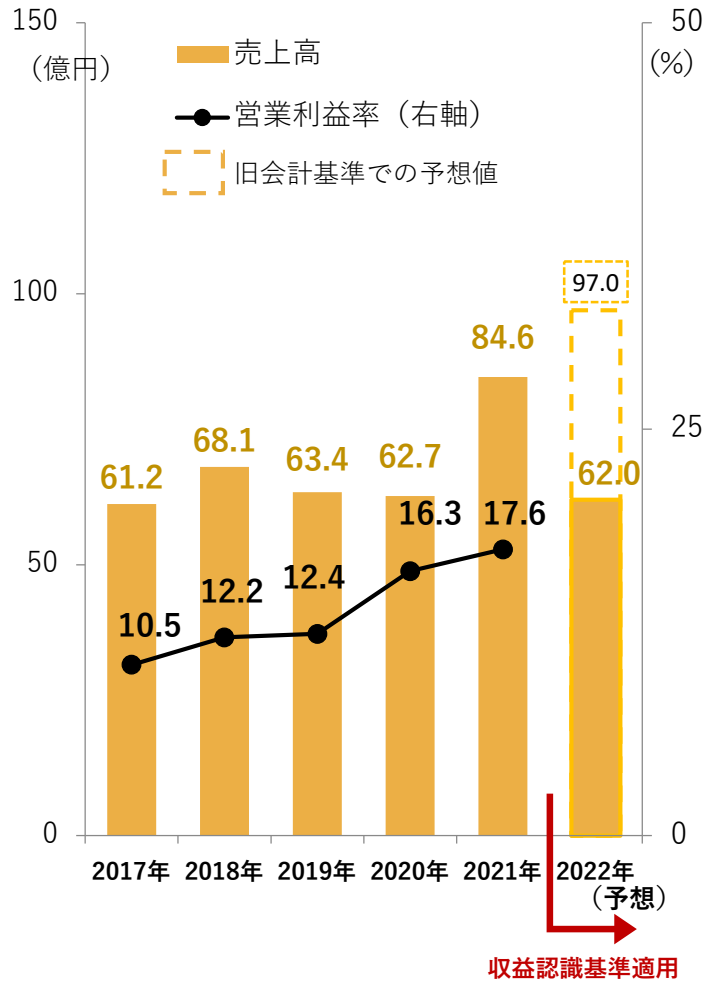
## ●中国の化粧品市場

中国の化粧品市場はコロナ禍においても拡大を続けており、日本をはじめとする海外からの化粧品輸入額も増加傾向が続いています。当社においても中国への拡販に注力してまいります。

2022年11月期 予想

売上高 62億円

(旧会計基準) 97.0億円 +14.7% (対2021年)



### 外部環境

- 中国の化粧品市場はコロナ禍でも拡大している。2024年には、2019年比で6割増に達する見通し。
- 化粧品の国内市場も徐々に回復。

### 当社の状況

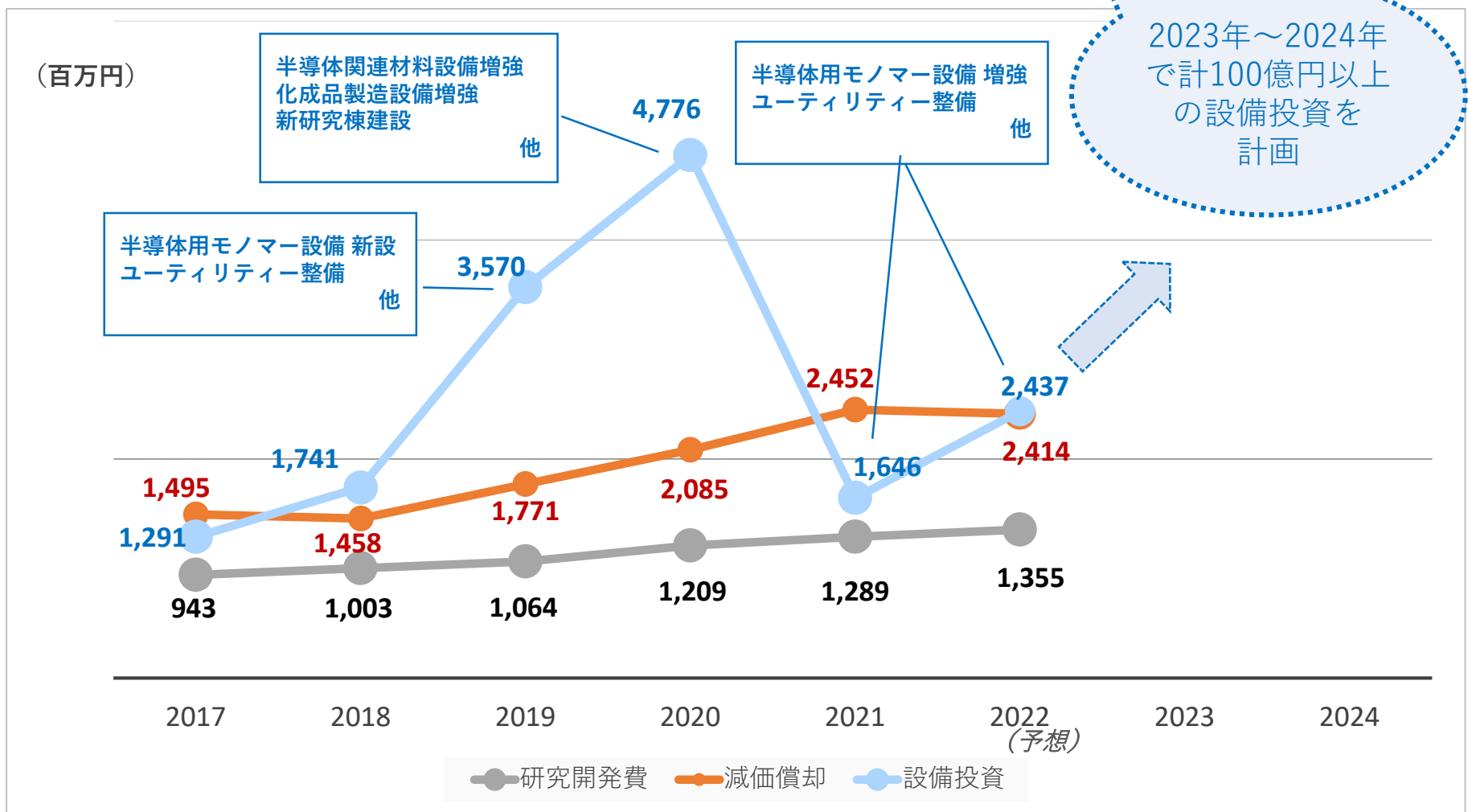
- スキンケア用シートマスクに好適な機能（保湿性など）を有する化粧品原料を中国などへ拡販。
- 超親水性材料、半導体用添加剤の安定供給と用途開拓に注力。
- 2月に三菱ケミカルから頭髮化粧品用アクリル樹脂の事業を譲受。海外市場への販売を進める。
- 特殊溶剤の用途展開を進める。

### 市場におけるリスク

- 新型コロナウイルスの変異株拡大による、化粧品需要の回復停滞。

# 設備投資・減価償却・研究開発費の推移

\* 中期経営計画にて、2020年～2024年度までの累計で約200億円の設備投資を計画しております。



◆ 当社のご紹介

◆ 2021年11月期 決算概要

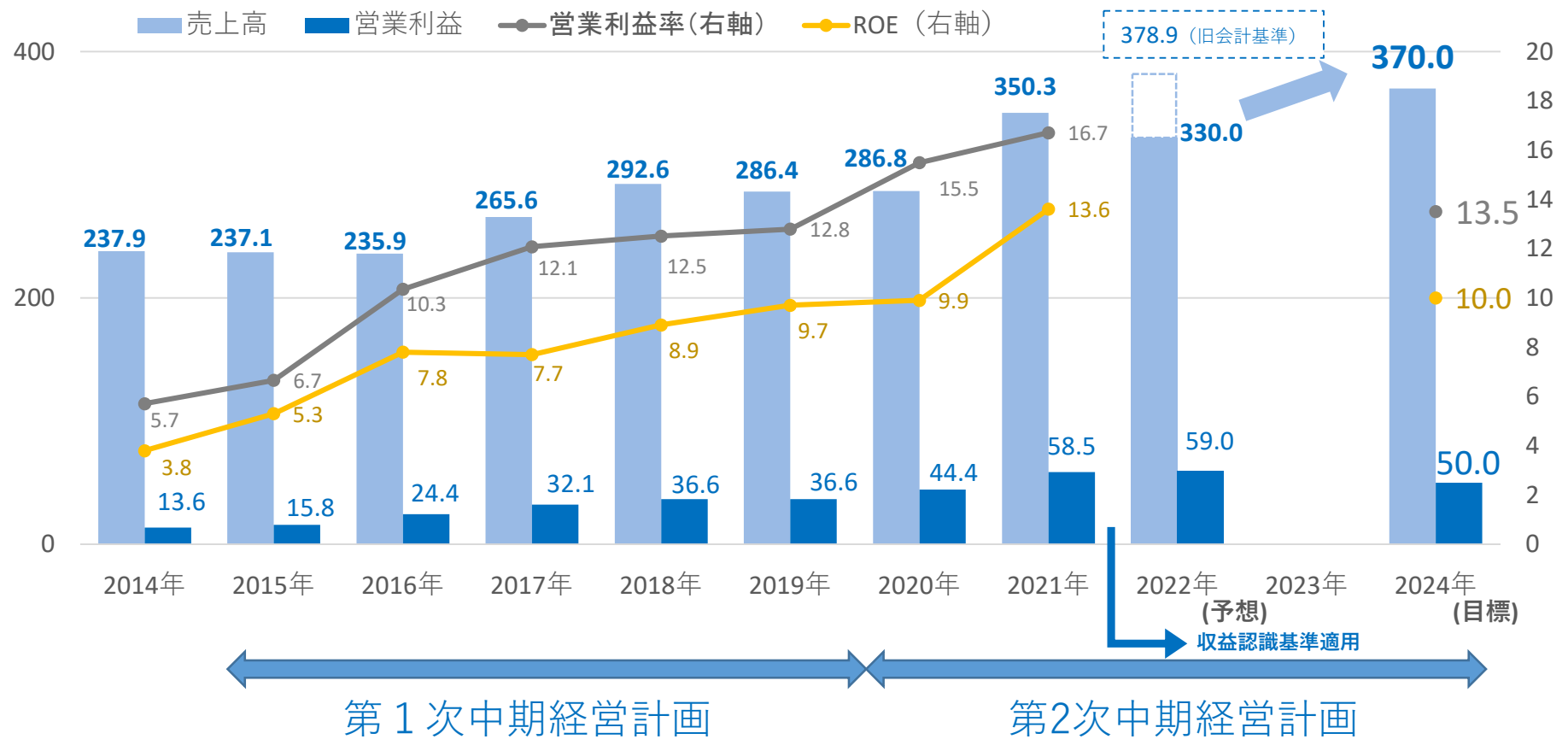
◆ 2022年11月期 業績予想

◆ 中期経営計画

### ◆2年目を終えて

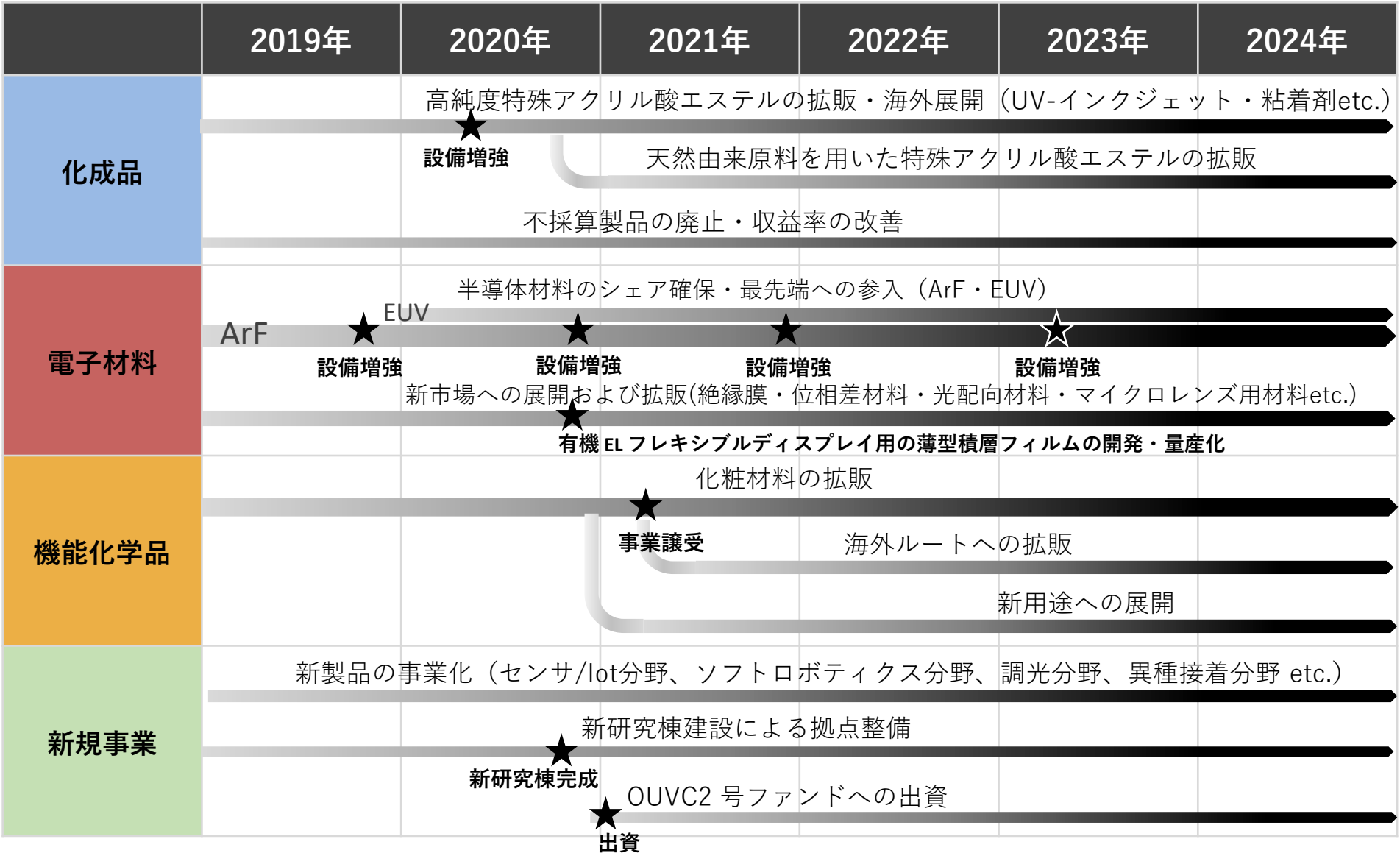
第2次中期経営計画の開始とほぼ同じ時期に、新型コロナウイルス感染症の拡大が始まり、緊急事態宣言の発出により世界中で経済活動が停止しましたが、巣ごもり需要の拡大などにより電子材料など一部の事業は好調に推移しました。

計画2年目となる今期は、急激な経済活動再開の影響による、ナフサや原料価格の上昇・物流の混乱といったマイナスの要素もありましたが、化成品の需要回復、電子材料の旺盛な需要、頭髮用化粧品原料の事業譲受などの効果により、計画は目標を上回るほど順調に進捗しており、2024年の目標値の大部分は前倒しで達成しております。





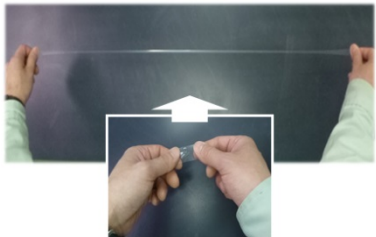
◆事業ポートフォリオの最適化を図るため、各種施策を適時適切に行っていきます。



## ◆センサ/lot分野

- ・伸縮性エラストマー
- ・伸縮性導電材料

用途・・・生体センサ、ストレッチャブルデバイス、感圧センサ、スマートテキスタイル 等



【当社エラストマー】

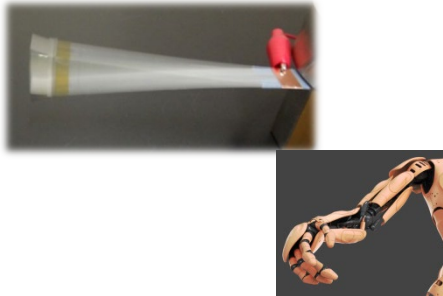


【イメージ資料】

## ◆ソフトロボティクス分野

- ・有機圧電材料
- ・誘電エラストマー材料

用途・・・触覚デバイス、ソフトアクチュエータなど

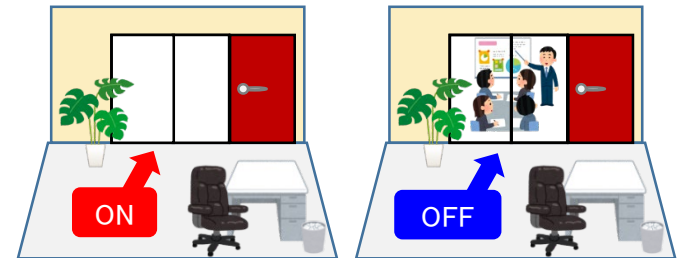


【イメージ資料】

## ◆調光分野

- ・ポリマーネットワーク 液晶材料
- ・エレクトロクロミック材料

用途・・・スマートウィンドウ等  
(透明と遮光が切り替わる窓)

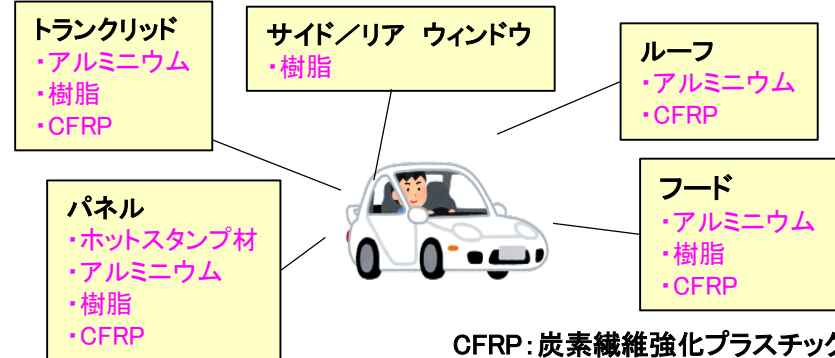


【スマートウィンドウ】

## ◆異種接着分野

- ・機能性接着モノマー

・自動車の軽量化で、色々な素材を使用⇒異種接着剤の需要

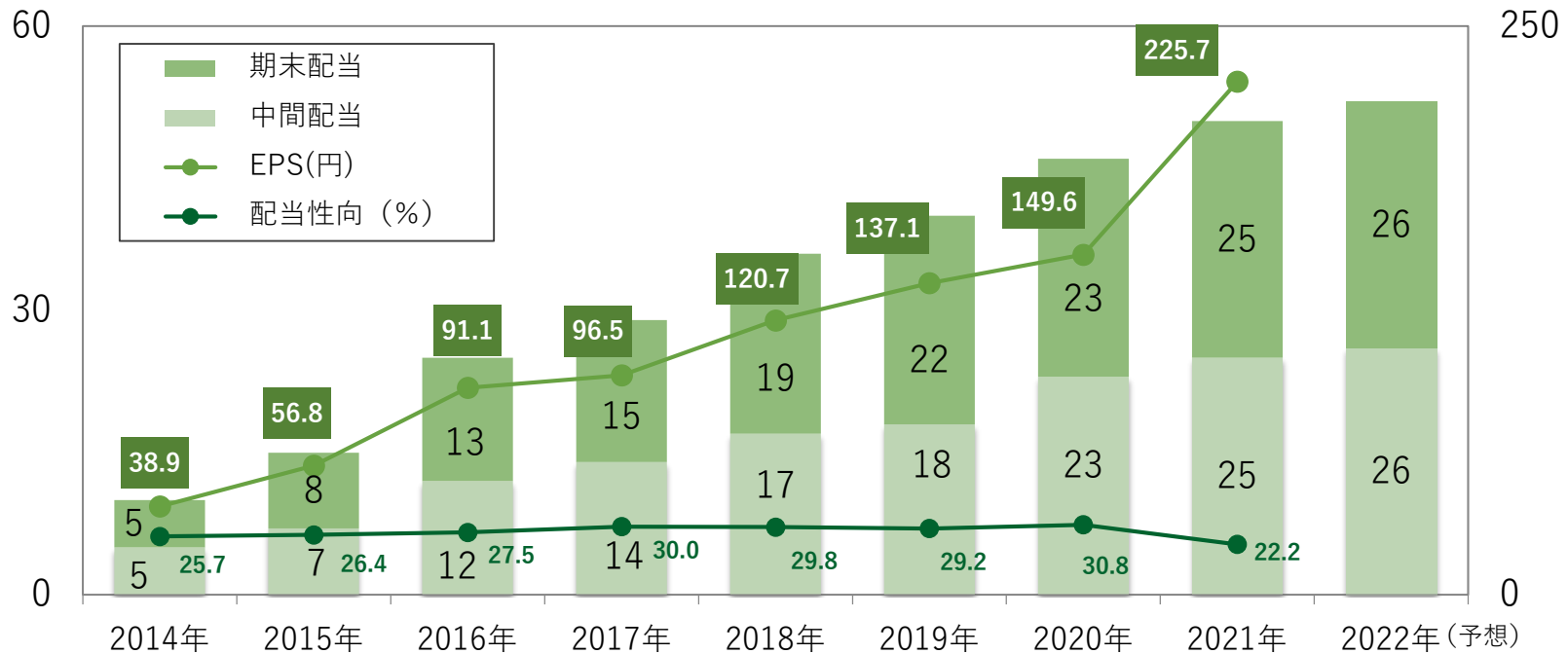


- ◆ 配当性向30%を目安とし、健全な財務内容を維持しつつ、安定的かつ継続的な配当に努めます。
- ◆ 総還元性向50%を目標とし、自己株式の取得を含めた株主還元の充実に努めます。

配当 (円/株)  
配当性向 (%)

## 配当金の推移

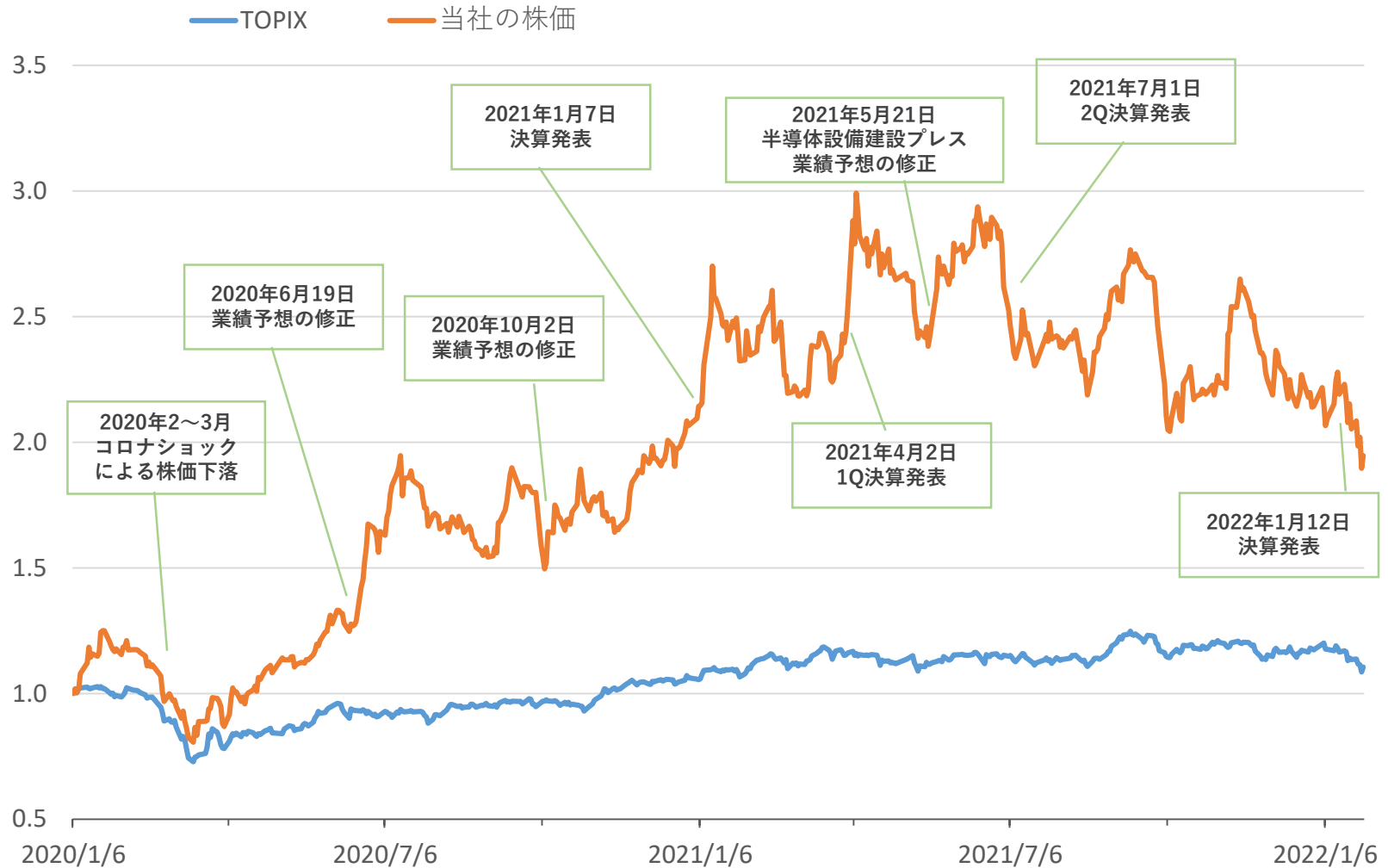
EPS (円)



自己株式の取得 (億円)	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年(予想)
	—	3.3	—	—	4.4	—	—	—	※12.0 (上限)

※2022年1月より実施

● 2020年の年初株価を1とした場合、当社株価は、TOPIXの変動に比べて高い増加率で推移しております。

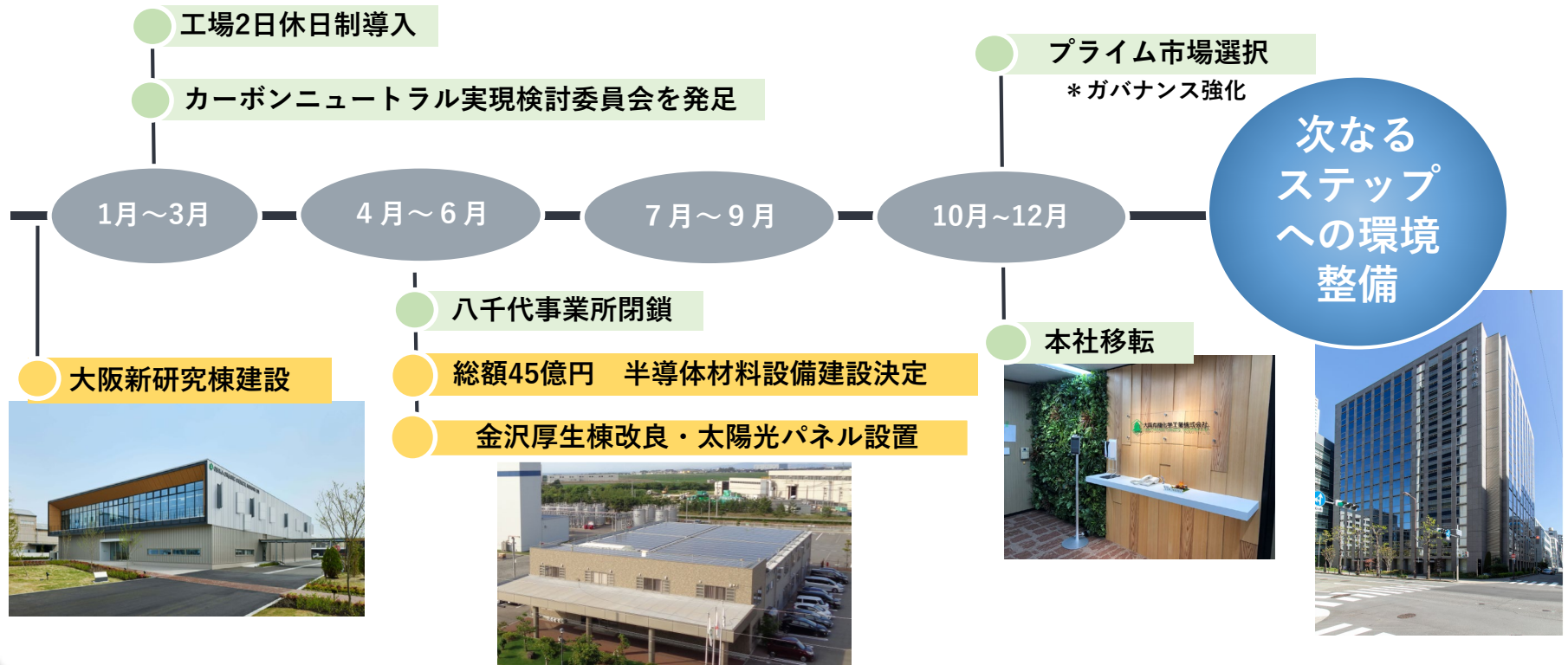


## 将来への投資

レジリエンス：危機対応などで、組織がより創造的・強固になり、成長につなげていく力

### ◆当社では、資産の効率化とレジリエンス強化に努めてまいります。

- ・大阪市内に保有していた駐車場の土地を売却するなど、資源の再分配を進めています。
- ・関東地区の物流拠点として稼働してきました八千代事業所を閉鎖し、物流業務を各工場・事業所へ集約することなどにより、保有資産の効率化を進めています。
- ・カーボンニュートラル実現検討委員会を発足させ、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを行っています。
- ・その他、設備投資や労働環境・ガバナンスの向上など、次なるステップへの環境整備を行っています。





当社グループは、社会の発展に持続的に貢献できる企業集団をめざして、従業員が自分の能力を最大限発揮し、個人個人がいきいきと活躍できる社風を培っていくため、人材確保と育成に向けてさまざまな取り組みを行っています。

## 人材確保

昨年度より、採用ホームページの充実化を図っています。これによって、ホームページのエントリーBOXからの応募数が約10倍に増加しました。学生の方々からは「福利厚生や会社の制度がわかりやすかった」との好意的なご意見をいただきました。今後、従業員や工場の紹介などさまざまなコンテンツを追加していくことで、ホームページの充実化に努めてまいります。



## 多様な人材が活躍できる職場づくり

当社グループでは、企業としての持続的成長において、多様な人材が欠かせないという考えのもとダイバーシティに向けて取り組んでいます。また、従業員の多様なライフステージやキャリアプランに応えるため、ワークライフバランスの充実に向けた取り組みにも注力しています。

### ダイバーシティに向けた取り組み／ワークライフバランスの取り組み

#### 次世代育成支援対策推進法 一般行動計画

計画期間：2020年11月1日から2024年10月31日までの4年間

目標 育児休業および育児を目的とした休暇の取得率を向上させる。

- ・ 男性：20%以上(現状：4% 2019年度実績)

#### 女性活躍推進法 一般行動計画

計画期間：2021年4月1日から2026年3月31日までの5年間

目標 女性管理職(相当)の登用をめざし育成強化を行うため、下記(1)または(2)の割合を向上させる。

- (1) 管理職(相当)に占める女性割合：10%以上(現状：3.1%)
- (2) 男女別ステージ昇級比率を同等にする。



大阪市女性活躍リーディングカンパニー  
二つ星認証(2020年11月1日認証)



大阪府  
「男女いきいき・元気宣言」認証  
(2020年12月10日認証)



石川県  
いしかわ男女共同参画推進宣言企業  
「女性活躍加速化クラス」認定  
(2020年12月8日認定)

### <見通しに関する注意事項>

- 本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。
- 従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があります、いかなる確約や保証を行うものではありません。

【お問い合わせ】  
管理本部 IR・広報担当  
TEL 06-6264-5071 (代表)



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー

**大阪有機化学工業株式会社**

東証1部：4187